



学術資源研究公開センター

【部局のミッション（基本理念・使命）】

- 学術資源研究公開センターは、本学の歴史において研究に用いられ、あるいは教育のために収集された資料標本等を保管・分類し、学術資源として今後の研究教育に資するとともに、社会に還元することを使命とします。この使命を達成するために、本センターは学術資源に基づく世界最高水準の研究を遂行するとともに、次世代の研究を担う指導的人材を育成します。
- 総合学術博物館は、資料標本に基づく世界最高水準の研究を創造するとともに、次世代の研究を担う指導的人材を育成します。
- 植物園は、国際的に研究の場所や材料を提供し、研究の国際的拠点としての発展を目指すとともに、学内教育及び市民の生涯教育に貢献します。
- 史料館は、内閣総理大臣の指定する「国立公文書館等」及び東北大学自身の全学的アーカイブズ施設として、東北大学の歴史的資料を市民や国際社会に開かれた情報資源として適切に管理・公開し、これらを活用した独創的な教育・研究活動を展開することで、本学の歴史情報を通じた社会貢献を行うとともに、社会に開かれた大学としての東北大学のミッション実現を支えます。

【機能強化に向けた取組方針（～2017年度）】

- 私たちは、「ワールドクラスへの飛躍」に不可欠な先端技術の活用のための環境整備と国内外の博物館・植物園・史料館・公文書館等・研究機関との連携体制の確立に取り組むとともに、新しい資料標本研究及び教育の拠点として、学内・学外の研究教育の支援を強力に推進します。また「復興・新生の先導」に資するため本センターの独自性を活かした復興支援事業を推進します。
- 総合学術博物館は、「グローバリゼーション」と「イノベーション」の時代において、資料標本に根ざす研究教育の創造という部局の理念を継承・発展させるため、現代的課題の解決を目指す新しい研究を創造し、博物館独自の手法により、その成果を速やかに教育に反映させ、また、広く世界と共有することを目指します。「ワールドクラスへの飛躍」に不可欠な先端技術の活用のための環境整備と国内外の博物館・研究機関との連携体制の確立に取り組むとともに、新しい資料標本研究及び教育の拠点として、学内・学外の研究教育の支援を強力に推進します。「復興・新生の先導」に資するため被災ミュージアム復興支援と震災遺構アーカイブ公開事業を推進します。
- 植物園は、その国際的ネットワークを活かし、植物研究に関する情報や材料の提供を促進すると同時に、生物多様性の保全や生態系変動に関する研究、分野横断的な交流などを促進し、植物に関係する総合的拠点として発展させる基礎を築きます。植物園内の効率的な管理、安全対策などを充実させるとともに、学内教育、市民の生涯教育の場として優れたコンテンツの開発を目指します。
- 史料館は、東北大学の歴史情報を活用した社会貢献を進め社会に開かれた大学としての東北大学のミッション実現を支えるため、今後4年間を見据えた取組として①本学事務部門と連携した歴史公文書の適切な管理公開体制の確立、②「東北大学校友アーカイブズ」の整備・充実、③デジタルアーカイブズの整備を通じた保有歴史情報の学内外での共有環境の整備、④保有するコンテンツや研究成果の展示会・講演会・セミナー等多様な形態による情報発信の展開、以上の4点について重点的に取り組みます。

【重点戦略・展開施策】

1. 学術資源を活用したイノベティブな教養教育・専門教育の展開

センター各業務組織の学術資源を教養教育・専門教育の教育資源として有効に活用する体制を構築し、設備等の整備を進めます。

- ①最新情報技術等を活用し、学術資源の教育資源化を進め、イノベティブな学芸員養成課程及び専門教育を展開します。
- ②自然史標本館・常設展示の機能的な活用（3Dイメージング設備の活用：X線CT、MRシステム）による教育を行います。
- ③自然倒木や野生生物など、来園者の安全を脅かす要因に対する対策を充実させるとともに、スタッフの能力向上を奨励し、安全に利用できる環境を効率的に維持します。教育研究や市民公開に資するコンテンツの開発と充実を図るとともに、アウトリーチ方法の改善を図り、教育、研究、及び市民の生涯教育での利用を拡大します。
- ④史料館が所蔵する歴史的公文書について重点的に整理・公開を進め、未公開文書の解消を図ります。
- ⑤「東北大学校友アーカイブズ」について計画に基づき整理・公開を進めるとともに、卒業生その他への呼びかけを通じその充実を図ります。

- ⑥デジタルアーカイブズの改善を行い、史料館が保有する歴史情報を学内外で広く共有できる環境の改善を行います。
- ⑦常設展・企画展などの展示を継続的に行うとともに、その成果を基盤とした図録や出版物などのメディア発信を行い、市民や社会への更なる情報発信を行います。

2. 学術資料標本を活用した新しい研究の創造と異分野間連携の促進

東北大学が所蔵する学術資源を研究資源として効率的に活用できる体制・設備等の整備を進め、学術資源の新しい研究スタイルの創造と学術資源を介した異分野間連携の構築を促進します。

- ①学内学術資源のデータベース化等の情報資源化、学内共同利用設備の効率的な運用等を進め、国際・国内研究プロジェクト及び国内外の研究機関との連携強化を進めます。
- ②全学教育科目「東北大学のひとびと」や大学史にかかわる職員研修の改善・充実など教養教育への支援を進めます。
- ③大学史に関わる展示会・講演会・セミナー等を毎年継続的・積極的に開催します。
- ④常設展・企画展などの展示を継続的に行うとともに、その成果を基盤とした図録や出版物などのメディア発信を行い、市民や社会への更なる情報発信を行います。

3. 独自性を活かした復興支援・震災記録事業の推進・展開

センター各業務組織の独自性を活かした復興支援・震災記録等事業を継続・展開します。

- ①被災ミュージアム復興支援事業の継続・展開に加え、一般企業との連携・共同研究による震災遺構クラウドデータアーカイブ公開事業を推進し、国連防災世界会議等における情報発信に積極的に取り組みます。
- ②被災ミュージアム復興支援事業の継続と震災遺構クラウドデータアーカイブ公開事業を推進します。
- ③本部との密接な連携の下、本学の公文書（特に歴史公文書）の適切な管理・公開のためのシステムについて検討・実現を図るとともに、そのための研修プログラムを改善・確立します。
- ④史料館が所蔵する歴史的公文書について重点的に整理・公開を進め未公開文書の解消を図るとともに、デジタルアーカイブズ等の改善により保有する歴史情報を学内外で広く共有できる環境の改善を行います。

4. 先端技術を活用した学術資源利用の促進

学術資源利用のための先端技術活用を産学連携により推進します。

- ①3Dイメージング技術による学術標本のデジタル化、震災遺構の記録・公開等による学術資源活用を進めます。
- ②高解像度X線CT設備等学内共同利用設備の活用、所蔵資料標本の活用、統合国際深海掘削計画（IODP）等、国際研究プロジェクトとの連携による研究推進、環境省モニタリング1,000等への積極的協力、共同研究連携体制の活用を行います。

5. 学術資源等を活用した社会連携活動の推進・展開及び地域・国際博物館等の連携強化

学内外の学術資源等を活用した企画展・公開講演会・普及行事等を開催し、本学と地域社会の連携を促進し、知縁コミュニティの創出・拡充に寄与します。

- ①企画展等の開催に加え、仙台市域の博物館等との連携を強化し、さらに博物館間の国内・国際連携体制の構築に努めます。
- ②企画展・公開講演会・体験行事、SMMA連携、スミソニアン自然史博物館等との連携を推進します。自然倒木や野生生物など、来園者の安全を脅かす要因に対する対策を進めるとともに、スタッフの能力向上を奨励し、安全に利用できる環境を効率的に維持します。教育研究や市民公開に資するコンテンツの開発と充実を図るとともに、アウトリーチ方法の改善を図り、教育、研究及び市民の生涯教育での利用を拡大します。